

甲府市民のライフラインを守り55年

インフラ維持のための体制強化に努める

●甲府市管工事協同組合

TOPICS

本年8月に設立55周年を迎えた甲府市管工事協同組合(齊藤鉄也理事長 組合員50名)は11月17日甲府市内で記念講演及び祝賀会を開催した。

甲府市は大正2(1913)年に上水道の給水を開始(全国で26番目)、1日の最大給水量を3倍に拡大した昭和29年から上水道工事指定店制度を採用



55周年式典で
あいさつをする齊藤理事長

し、民間業者に給水装置工事資格が与えられ、昭和36年に組合の母体となる甲府市上水道工事指定店組合が創立、翌年8月に甲府市管工事協同組合が設立され、現在に至っている。

現在の甲府市上水

道は甲府市に加え甲斐市、中央市、昭和町などへの給水も担い、計画人口は27万人、約170,000m³の最大給水量、600ℓ/人日以上の供給能力を備え、組合は管理面からライフラインを支えている。

組合は、平成4年に甲府市上下水道局と「災害応急復旧工事等に関する業務協定書」を締結、阪神淡路大震災をはじめ全国各地の災害被災地に、水道設備復旧のための支援隊を派遣してきた。また、市の総合防災訓練に毎年参加し、防災復旧工事訓練に積極的に取り組んでいる。昨年から組合と組合員が災害時の事業復旧方法をあらかじめ決めておく「事業継続計画(BCP)」策定にも取り組み、本年8月の市の総合防災訓練に併せ組合独自の組合員への安否確認訓練も実施するなど、BCPの実効性の検証と組合と組合員間の連携体制構築に努めている。



組合BCPの検証のための安否確認訓練

齊藤理事長は、「設立後55年を経過し、事業者の役割も上下水道の普及からライフラインの安定的維持へと変化しており、事業継続計画の策定支援も重要課題となっている。今後も甲府市の上下水道局と協力を図り、市民のライフラインを守る責務を果たすために、個々の組合員が抱える課題解決や経営基盤の強化に組合として共同の力で取り組んでいきたい。」と力強く語った。